

吉野川市学校再編計画（素案）について

～鴨島東部地区対象の説明会での主な意見等～

平成27年度において鴨島東部地区（牛島・上浦・森山小学校区）では、平成27年8月に保護者意見交換会を開催し、その後PTAや就学前（0～5歳）の子どもを持つ保護者の皆様を対象にそれぞれ説明する機会を設けました。

鴨島東部地区を対象にした説明会において、皆様からいただいた主なご意見・ご質問を取りまとめましたので、お知らせいたします。

PTA説明会での主なご意見・ご質問

上浦小学校

平成27年10月18日（日）（上浦小 体育館）

- 推計では平成33年度には複式学級が2つになるが、具体的に複式学級が増えると教育環境はどうなるのか。
- 小学校は複式学級になるのであれば再編はやむを得ないが、中学校に関してはまだ考えの整理ができていない。
- 徳島県ではチェンスクール（阿南市椿地区）・パッケージスクール（牟岐町牟岐地区）がモデル事業として実施されているが、具体的にどのような事業なのか教えてほしい。また、吉野川市では検討されているのか。
- 児童数が5人や6人になれば複式学級にしなければならないのか。
- 通学支援はどのような方法で実施してくれるのか。
- 通学支援のスクールバスは登下校だけだと思うが、部活動等で下校時間が遅くなった場合や夏休みの練習はどうするのか。
- 再編の決定はどう見極めて、どの時点で結論を出すのか具体的に教えてほしい。
- 再編は小学校が決まれば、中学校も決定なのか。また、中学校の再編の場所は鴨島第一中学校の場所で決定なのか。
- 再編によって人数が増えると学級崩壊の危機も起こりうると思うが、教員の資質の向上に関して対策をしていただけるのか。
- 小学校は、個人が希望すればどの学校にも入学できるのか。
- このまま児童数の減少が続き、運動会等の学校行事や、これから生まれてくる子どものことを考えれば再編はやむを得ない。

森山小学校

平成27年11月24日（火）（森山小 体育館）

- 複式学級にはそれぞれメリット・デメリットがあり、賛成意見・反対意見があると思うが、十分に保護者の理解を得た上で再編を進めてもらいたい。

- 通学距離が長くなることで、不審者や交通安全面に不安がある。
また、大雨警報等による緊急下校の際、保護者としてすぐに迎えにいけない。そういった場合、どのような対策を講じてくれるのか。
- スクールバスでの通学支援を実施する場合、停留所とか運行ルートなどは具体的に決まっているのか。
- 通学距離は短い方が安心できるので中学校は再編しないでほしい。小学校の再編に関しては、校区の再編などにより対応してはどうか。
- 小学校の児童が中学校の施設を利用するとなると、階段や手洗い場等の施設や設備の改修が必要になるのではないか。
- 小学校、中学校とこども園の再編計画に順番はあるのか。中学校の再編を待たずに小学校の再編を先に進めることも可能なのか。
- 保育所、幼稚園及び小学校に関しては施設の老朽化や児童数の減少を考えると再編のニーズは高い。一方、中学校の再編はまだ緊急性もないため、1学年2学級が続く間は再編はできるだけ遅らせてほしい。

鴨島東中学校 平成28年3月18日（金）（鴨島東中学校 家庭科室）

- 他県では再編した中学校が実例としてあるのか知りたい。また、どのような問題がありどう解決したのか知りたい。
- 小学校再編は進めてもらいたい。中学校に関しては、部活動等を考慮し鴨島第一中学校の場所へ再編するのであれば、帰宅時間が遅くなるので、通学支援を検討する際、子どもが負担なく通えるようにしてもらいたい。
- 中学校を存続させたまま小学校を新たに作ることはできないか。
- 児童数減少の顕著な小学校に通う児童を持つ保護者の意見を重視してもらいたい。鴨島東中学校と鴨島第一中学校の再編が早期に困難であれば、こども園・小学校・学童を同じ場所に作ることはできないか。
- 再編は具体的に何年から実施されるのか。今後再編に向け反対意見が多い場合、教育委員会はどのように対応していくのか。
- 中学校は生徒数もまだ多く再編する必要がないのではないか。小学校に関しては、児童数の減少が著しく再編する必要があると思う。
平成31年度にこども園が開園予定と聞いたが、卒園した子どもたちが同じ小学校・中学校に通えるよう、小中一貫教育を実施してもらいたい。
- こども園の開園や学校再編に関して、子どもの進路を考える上で、情報を早く出してほしい。
- 少ない人数でも小学校を残したい。中学校に関しても人数が少ないので再編というよりも、部活動等考えた場合、自転車を通える方が良いので再編はしないでほしい。
- 鴨島東中学校と鴨島第一中学校が再編されることに賛成なので早く進めてもらいたい。子どもの教育環境には多くの友だちが必要だと思う。
- 児童数の多い学校、少ない学校それぞれメリット・デメリットはあると思うが、子どもの教育環境を考えた時、クラス替えのある方が望ましいと思う。

就学前の子どもを持つ保護者説明会での主なご意見・ご質問

牛島地区公民館で開催した説明会

平成27年11月12日（木）

- 上浦小学校において学校再編が複式学級の生じる平成30年度に間に合わないのであれば、通える小学校を選べるようにしてもらいたい。
- 上浦小学校が平成30年度に5学級になるのであれば、再編は保育所、幼稚園及び小学校を先に進めるべきではないか。牛島小学校の施設や敷地を利用し、そこに先行して小学校とこども園を作ってほしい。
- 上浦小学校と牛島小学校、上浦小学校と森山小学校のように2校を先に再編し、後に3校再編というのはできないのか。
- 中学校が先に再編されると中一ギャップが心配される。小学校が先に再編されることで、人数が多い状態を経験し中学校に上がるため、若干軽減されるのではないか。
- 平成33年度には推計では上浦小学校は4学級になるが、小学校の再編のスケジュールが平成35年度では遅すぎる。

森山地区公民館で開催した説明会

平成27年11月17日（火）

- 小学校の通学支援について、スクールバスだけに頼るのではなく、自転車に乗れる3、4年生になれば自転車通学が許可されるような環境を整えてもらえないか。
- 中学校が再編になれば何年度に開校予定なのか。
- 平成28年度の上浦小学校の入学者数が推計より少ない場合、小学校の再編は早まる可能性があるのか。
- 鴨島東中学校の場所が再編する小学校になった場合、小学校周辺に学童が新たにできるのか。森山地区公民館で行っている学童は残るのか。
- 中学校よりも小学校の再編を優先してもらいたい。こども園ができるのはありがたい。

上浦地区公民館で開催した説明会

平成27年11月18日（水）

- 児童数の推計では平成28年度は複式学級にはならないとあるが、平成28年度の新入生が減ったとしても複式学級にはならないのか。
- 児童数の推計から上浦小学校の保護者の方が最も複式学級を回避したいと願っていると思うが、複式解消の特別措置は行ってくれるのか。
- 小学校の再編は賛成。中学校の再編は通学距離が遠くなるが、場所は鴨島第一中学校の場所決定されているのか。
- 先行して牛島小学校と上浦小学校の2校を再編することはできないのか。
- 鴨島東中学校の施設の老朽化はかなり進んでおり、中学校の再編がなかなか難しい状況であれば小中一貫教育はできないのだろうか。
- 中学校が鴨島第一中学校の場所に再編され、鴨島駅前ばかり人口が増加するのではないか。学校再編がこのまま実現されれば、上浦地区の人口はますます減少するのではないか。小中一貫教育により鴨島町の東部にも人が集まるような環境づくりを考慮してもらいたい。

説明会でいただいた主なご質問に対する市教委の考え方

Q 複式学級になる人数は何人なのか。

- A 小学校においては二つの学年を合わせて16人以下（1年生を含む場合は8人以下）となる場合です。

Q 複式学級に該当する児童数になると、必ず複式学級が発生するのか。

- A 学級数は学級編制基準によって定められており、教員が配置される定数は学級数によって定められています。5学級の小学校の教員定数は7人（校長、教頭、教諭5人）です。教頭が学級を担当することにより複式学級を解消し単学級（1学年1学級）で授業を行うことができます。この場合、教頭は常に授業を行っている状態となり負担が大きくなります。

Q スクールバスの運行方法などについて、事前に具体的なことが示されないと判断できない。

- A スクールバスの運行ルート、乗降場所、便数、運行時刻などについては、案はお示ししますが、決定については、「学校再編準備委員会」で議論し決定することとなります。

※ 学校再編準備委員会とは、学校・保護者・地域の代表者で組織する会議です。

Q 小学校や中学校は希望すれば選択できるのか。

- A 教育委員会は就学予定者の就学すべき小学校（中学校）を指定することとされています。本市においては就学校を指定する場合、学校選択制は採用していません。ただし、保護者の申立により教育委員会が認めたときは、希望する小学校（中学校）に変更することも可能です。

Q 小中一貫教育は考えられないのか。

- A 中1ギャップ(※)をなくす意味では、小学生にとって非常にメリットがあると思いますが、中学校において単学級（1学年1学級）が回避されないため、教育環境の観点から課題もあると考えます。現在のところ、小中一貫教育の実施はしないことで進めています。

※ 中1ギャップとは、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活にうまく適応できず、不登校等の問題行動につながっていく状態をいいます。

Q 徳島県がモデル事業として実施しているチェンスクール（阿南市椿地区）・パッケージスクール（牟岐町牟岐地区）とは具体的にどのような事業なのか。（別紙参照）

- A 別紙『～今後の人口減少社会に対応した新しい学校教育のかたち～小中一貫教育「徳島モデル」調査研究事業（平成26年3月：徳島県教育委員会）』を参照してください。

お問い合わせ

吉野川市教育委員会 教育総務課学校再編準備室

〒776-8611 吉野川市鴨島町鴨島 1 1 5 番地 1（東館3階）

TEL:22-2275

FAX:22-2270